

大藏省同濟

石炭直輸出、為人民往來外國船

唐津港へ寄港免狀、度方一件

十五

但、地方官控、了、免狀付與、手續

外務省

九月一日

開書
送第一一四号

八月卅一日接受

記録局

庶務局

儀式課

別紙に載る同唐津港より本館へ届入
の船舶入港多量に候へば、新の船より
此方へは通帳より

明治廿五年八月

内閣書記官

外務書記官

九月一日

太政官

要類輯

唐津港、石炭直輸出、為、輸入外國船入港
被差許度儀、有同

長崎縣下肥前國唐津港より唐津石炭直輸出
ノ儀、因般御裁可相成候、長崎縣國出
張所設立ノ上、同縣下西松浦郡新井村、民村
定者、右直輸出差所、但為差向、中遠洋運炭
ノ用、適之、中、内國船、無之、有、石炭、輸出、為、外國
船、輸入、同港、相、廻、度、方、同、人、多、難、出、候、右、院、同
港、ニ、出、張、所、設、立、致、有、之、候、得、而、係、向、新、井、村、定
無、之、候、有、差、入、外、國、船、入、港、ノ、儀、御、同、屆、相、成、度、
此、取、相、成、候、也

明治十五年八月一日

甲二一七

太政官

大藏卿松方正義

右、政大臣三條實美殿

同、趣、聞、屆、候、事

明治十五年八月三十日

明治		年		期		信		紙		着		字		預		第	
月		日		時		分		局		字		分		局		報	
ケ	ン	ニ	ン	ア	ク	イ	ン	フ	一	ガ イ ム キ ヨ ウ 、 ナ ガ サ キ ケ ン レ イ							
ク	カ	マ	ヤ	ル	ウ	・	ニ	カ	ニ								
ル	ギ	ワ	ト	モ	キ	ジ	カ	イ	三								
レ		ス	イ	ノ	ヨ			コ	四								
カ	リ	ト	イ	ガ	ウ	キ	ギ	ウ	五								
ウ	キ	キ	レ		ノ	ユ		チ	六								
ズ	キ	ワ		イ	メ	レ	リ	ヨ	七								
ヤ	ト	ト	ガ	コ	ン	ツ	カ	リ	八								
	バ	ウ	イ	ク	キ	ヲ	イ	セ	九								
		ケ	ケ	セ	ヨ	ヲ	ガ	キ	十								
百	十	八	十	十	十	十	十	十	十								

外務省

明治三十四年

外務省

長崎縣令

フカイコウケノ金不炭ニ限リ海公由

輸出者限リノ免許アル者ハ由

船着入ノ該地ニ由スルハ商船限リ由

所ニ其哉

九月五日
外務省
長崎縣令

外務省
長崎縣令

外務省

並外九馬轉

卿 輔



庶務局 稿

記

要類

類

電修書
長崎砂子宛
石炭由船中、伐いおる船、各船アル
モノニテモ、高右ノ、是船状ラバ、ガレバ、石炭
炭場、外國船ヲ回スラ得ズ
明治十五年十月六日

十六年五月廿九日記録編輯課接受

外務省

參

唐津港、石炭直輸出ノ為メ雇入外國船
入港被差許度義ニ付伺

長崎縣下肥前國唐津港ヨリ唐津石炭直輸出之
義遇般御裁可相成候ニ付談港ニ長崎税關出張
所設立ノ上同縣下西松浦郡新村平民松村定次
ハ右直輸出差許候處差向キ遠洋運炭之用ニ適
スハ牛内國船船之ニ付石炭輸出之為外國船雇
入同港、相廻度旨同人ヨリ願出候右ハ既ニ同
港ニ出張所設立致有之候得者取締向聊掛念無
之候ニ付雇入外國船入港ノ義仰聞届相成度候
段相伺候也

外務省

明治十五年八月八日

松方大藏卿

太政大臣

伺之趣聞届候事

十五年八月卅一日

外資ハ白子ニ号

外國船雇入ノ義ニ付伺

国籍 独乙国蒸気高船

船号 インザウ号

船長 ノ名セスルセシ

噸数 六百七十一噸

馬力 九十馬力

雇期 六ヶ月間 明治十五年九月廿日迄
合十六年三月十八日迄

雇賃 一ヶ月洋銀三千五百弗

雇主 長崎縣長崎區 長崎縣長崎區
青木林七郎

右者当縣下長崎區平民永見傳三郎代理者
休七郎願ニ因リ管内赤松浦郡唐津港ヨリ海外

長崎縣

石炭直輸出ノ義大藏省ヨリ許可相成候旨

石炭積入ノ為雇入唐津港へ廻船致度致出

願候右ハ独乙国領事へ差支ノ有旨合候旨

差支ノ品毎之旨回答有之候旨即允許ノ上ハ

至急雇入免狀即下付相成候様仕度此般

相伺候也

明治十五年十月廿日 長崎縣令内海忠勝

内海忠勝

外務卿井上毅殿代理

外務大輔吉田清成殿

伊豆海島に於て重宝の
伊豆可成なる由ある
上陸仰と係し即ち貴
是れと云ふ上ゆゑに

伊豆海島に於て重宝の
伊豆可成なる由ある
上陸仰と係し即ち貴
是れと云ふ上ゆゑに

伊豆海島

伊豆海島

伊豆海島に於て重宝の
伊豆可成なる由ある
上陸仰と係し即ち貴
是れと云ふ上ゆゑに

乃其志也、
周也、
平也、
うも、
ちん

3-0005

0291

記金局爲了

外務卿并上奏

外國船寄港免狀ノ儀、付上申

長崎縣下肥前國唐津へ設置致候公平社於テ石炭
輸出ニ付外國船雇入同所へ廻船之儀大藏省へ願出
許可相成候趣ヲ以右寄港免狀下渡方別紙之通
同社支店事務長井関盛良ヨリ願出候付右免狀以下附
相成度存候依テ右願書相添此致及上申候也

明治十一年十月廿日 東京府知事芳川顯

外務卿并上奏

東京府

卷一百一十五

記

外國船隻入戶免稅

長崎外下肥前同唐同港ハ石炭直輸セザルト并松山也
張河日港ニハ移立ニ成下候外同和雇入同港ニハ轉
義大和者ニ事取ルル者九月廿五日は得可ラ者候月
今般神奈川外下横濱在ル者同商人亞希利が一審知ラ
貨スホル銀船カハ廿四力多ラ雇入清國ニ海ニ出
輸送去々月賃降銀四千兩ニ付九月廿五日ハ明日ヲ至二月
廿四日迄三ヶ月万雇入ノ惣定仕候ニ付ハ其期限中時々
同港工入船仕方候者其寄港ニ免狀其助ヨリ至急
出下附置候者其坊上者ハ一切積荷ホト仕ハ別業
義ハホト近者ホ守可申候者ハ其寄港ニ候也

但中社義士長濟物下肥前同君屏、遠設仕負義、不爲候

華東中區舊代的買地黨為光緒居士族

東京

公平社

公事社支店任事御所

李勃長

蘭藏

陸井田

以月五
壬戌
東
社
印

東京府知事芳川顯正殿

前書出願三付奥印候也

東京府本所區長伊志雲考

卷之四

十二月十一日編輯

庶務司

儀式課

東亞府知事芳川顯成敬謝虎書並啓

儀禮第四卷之三

長崎物産會館 國産博覧會 主として、少年社

於石炭末爲一爲二，入同石炭

三式方知有、却出阵了得、以爲在掌中。

衆物下所入會同社在座子後長升同堂長子

之新書臨勿忘之此申出之全話作

大雅詩中 長流下 西松浦那

十二月一日記錄局編輯課接獲

外務省

不用類輯

新井武村定老、石炭を殖ふべし

多摩川、日多とあり、公乎社、み富ちえ子

乃在公平社之人、空、松村定機、他、

毛ノ子ヲ得五ノ五ノミ心取為均分中匠

卷之四

三才圖會

記録局寫了

輔卿



要類輯

受舞第一三號

事務局

篇

儀式課

十一月廿四日接受

熊野

記録付了

長崎縣下肥前唐津、海外、石炭、豆、輸出、義、般、目、下、松村、定、次、手、額、出、本、政、官、經、上、許、可、改、更、其、後、亦、在、人、外、國、船、以、在、石、炭、運、搬、改、度、出、不、紙、甲、一、百、一、通、本、政、官、經、入、寫、一、通、許、可、改、就、一、在、入、外、國、船、目、所、寄、港、一、義、一、在、令、本、人、一、其、名、一、經、一、在、省、一、額、出、一、一、在、上、一、在、省、一、在、寄、港、一、狀、一、在、其、一、在、一、標、改、度、一、及、一、在、一、在、一、也、

十二月五日記録局編輯課接受

大

藏

省

明治十五年十一月廿二日

大藏卿 松方正義

外務卿 井上馨殿

甲号

別紙

受乾第七五四号

唐津港、石炭直輸出ノ為メ雇入外国
船入港被差許度義ニ付伺

長崎縣下肥前国唐津港ヨリ唐津石炭直
輸出ノ儀迄般中裁可相成度、付該港ニ長
崎航関出張所設立ノ上全縣下西松浦郡新
村平民松村定次ハ右直輸出差許度差向
キ遠洋運炭ノ用ニ適スヘキ内国船無之ニ
付石炭輸出ノ為メ外国船雇入全港ニ相廻
度旨同人ヨリ願出度右ハ既ニ全港ニ出張所
設立致有之度得ハ取締向聊掛念無之度
ニ付雇入外国船入港ノ儀中聞届相成度
以段相伺候也

明治十五年八月八日

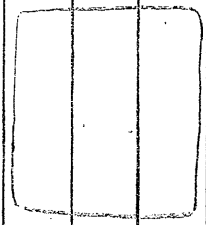
大藏省

大藏卿松方正義

太政大臣三條實美殿

伺之趣聞届候事

明治十五年八月三十日



別紙

乙号

長崎縣

本年七月二十日付リ以上申相成其縣
管下肥前國西松浦郡新村平民松村
定次代人松村辰昌リ唐津石炭輸出ノ
為ノ雇入外國船唐津港へ回漕致度旨
願之趣許可及条其旨本人へ達方可
取計は旨初達及事

追テ外國船雇入并約定方等ノ義ハ
當省主管ニ盡クニ付其筋へ願出
及採可申渡及事

大藏卿

大藏省

乙号
附録
別紙

願書進達 府上申

當縣肥前国西松浦郡新村平民松村定次代
人松村辰昌ヨリ外国船産入石炭直輸出
候旨別紙ノ通出願度有宜旨在議相成
度以段上申度也

明治十五年七月廿日

長崎縣令内海忠勝

大藏卿松方正義殿

大藏省

乙号
附録

別紙

外国船雇入唐津港へ石炭積入之為
出入願

長崎縣下肥前国東松浦郡唐津港より清国
地方へ石炭直輸出仕度存存より取歸と為
ノ税関市出張新設より奉願及此日既
ニ市許可相成及る船雇入方諸方搜索仕
度及市國人所有之羅西洋形船艦ニシテ保
険付堅牢ナル方ハ何レモ前約有之或ハ偶々
差又及方ハ僅ニ百噸以下ノ小船ニシテ唯々
手教ノ煩勞ノミナラス遠灘運炭ノ用ニ適セス実
際不得止更外国船雇入及外ニ手取無存
及然リト虽片該港ニ至ハ未開港ノ場所柄付
安リ、外国船ヲ相回シ倚セ度更不相成差掛困

大藏省

却仕度依之私共奉願及ハ外国船雇切ノ約定
ヲ致シ取歸人ヲ上乗リ為致該港出入ハ勿論
其他積荷ノ儀、至テハ石炭ノ外一切不仕嚴重
ニ取歸可仕度及私共雇切ノ外国船、限り該
港ニ回航シ石炭積入ノ儀市許可被成下度
奉願及右許可上雇切ノ船名及積石噸数其
他詳細ニ取調其都度上申可仕度素ヨリ税
関市出張モ市度及其時、市実査可奉
仰度前陳之儀備、奉懇願及以上

明治十五年七月十四日

長崎縣下西松浦郡新村平民

松村定次

代人

大藏卿松方正義殿

東松浦郡長古川龍張

□

山内準治

○

戸長

松村辰昌

○

七十九番地寄附

長崎縣下松浦郡唐津内町

所前平民

兵庫縣下播磨國飾東郡姫路十二

大藏省

十月廿五日

儀式課

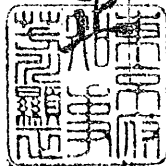
長崎山下肥前玉唐澤より石原由
輪出する物玉唐澤港船状公平社支店
より智長より既出するもの同社、何ハ將
定吉生他者言設立少知り、名目不明會、既
後兼知り傳へ本紙少知る右松村定吉ハ
松村定治と云ふ人あり石炭並輸送
大務を充て既設し、何者か之を交右來々
結社以爲之係り、何者か之を信回人并於
該社設立、何長崎和庭より、認許可
得肥前唐津に本社を要當店下
支店を設けり、各當支店事務長より
お取寄港船状中流方既出の物なり

十二月五日記録局編輯課接受

十二月五日 記 金局編輯課接受

少無別邸，適中出，依之，右書面，左

東家老知事者以顯



外幣書記在內

中

東京

公平社

長石の居候之身今般同人之寄陸の先状四乳一ヶ傾の所引取
心算之身と仰仕也此の室表々室及び佛可有之存家御若副一ヶ所

東京市神田區四ツ目町三丁目三番地

事男長井美塔良

井關盛良

東京府知事芳川正殿

庶務司

石橋

儀式課長

卷之七

儀復第四百三十一

東亞商務事乃川野田股司茂書致薩
長海縣下肥前國厚博、後重、公平社
於石炭土礦出之為外國所廢入而所
以所之矣其新者、雖出降了、得りる自
右岸港、知州力所、故初令同社、亦
多務長井岡聖良、一、新書信、勿誤、
此中、一、送物、一、星、則、別紙、異、三、上、
十二月五日記錄局編輯課接受
外務省

急

別紙

卿輔

庶務局 官本

儀式課 為

為多事

米國蒸汽商船

カムチヤノカ

石ハ今般

公平社 為

本年十一月廿五日ヨリ未ル

十六年二月廿四日ニテ雇入肥前國唐津港

ヨリ清國上海へ輸出之石炭積取、為メ同

港へ相廻、大藏省同濟ニ付石雇

期限中ニ限リ免許候事

外務省

明治十五年十一月廿日 外務省

七月十日編輯

七月十日接達

七月七日接達

七月七日接達



不用類輯
不要寫

八月十日
 長崎縣下肥前國唐津藩役主ノ公
 平社於今露玉商和カムヤツカ早ノ度人
 同如也知ノ事第ノ所此公成居ノ弟
 百ノ千言ノ事長崎知州近細方お達ノ事
 該知州、何ハ長崎知州近細方お達ノ事
 別家ノ通中出ノ事同知州ノ知事近行
 事成ノ所存ノ事此公成居ノ弟
 以所此公成居ノ弟此公成居ノ弟

明治二十七年七月十日 東京府書記官

外務省書記官

東京府

香港光緒二十九年

明十五年正月十五日
唐降書卷之三
長上海諸

高平社支店事務長

明治六年二月一日

井溪金良

東京府知事芳山顯正殿

五月廿九日編纂

内閣書院 第一三二号

十二月八日編纂

記録局寫

要類

別科古花南園と名付、豊後藩、石山直勝、有
主大外中如左、二回傳、生、姓、名、是、新、有、名、多、地
方、の、多、地、性、也

明治十一年十二月

由國分、河友

北條、生、河、友

十六年 五月廿九日 記録局編纂課受

太 政 官

男
氏

昔者天下唐津港より石炭を輸出せしあり
在り外より船日港に回帰せし時、新貨の
長き物不肥前國唐津港より唐津石炭直
輸せし故より多量の下平良村宮内サレモノ屋又
少く船日港に回帰せる先解纜の時、上將可
成るより中々今般多量の下平良永見傳ふ印介也
同様なる難航なり有る所上御掛合なきこと
先例と市にも義より雇入外より輸入出港は許
さず是れ、既知なる事なり也

明治五年七月十日　大井野村より記載

五ノ上三條宮三子

大正十一年四月

太政官

同知府

忍辱仙人

長崎縣
記
爲了



外國船雇入免狀ノ後ニ付上申

當縣下長崎區平民、永見傳三郎代理青木休七郎ヨリ唐津石炭輸出ノ爲メ雇入外國船唐津港へ回漕ノ後願出候ニ付曾テ大藏卿へ相伺置候如右ハ許可候條外國船雇入免狀ハ貴省ヨリ下附相成筈ニ付受取方願出サセ候様可申渡旨成達相成候然レ處右免狀出願ノ順序等相運候キハ往復尚數旬ヲ経過セサレハ回漕ノ都合ニ至ラサルヲ以テ爲メニ願人ニ於テハ營業上大ニ時捌ヲ失スル等難處不勘因テ便宜ノ爲メ本廳ニ於テ一時假免狀下渡し追テ本免狀下附ノ上引換候款又ハ免狀用紙豫メ本廳へ下附其船名噸數等記入下渡し上吏旨上申候款實際不便ノ事情御酌量至急何分ノ御如置下度此段上申候也

明治十五年五月廿六日
長崎縣令内海忠勝

明治十五年五月廿六日
長崎縣令内海忠勝

外務卿井上馨殿

十二月十八日接受

要領

外國船雇入免狀ノ儀ニ付上申
當縣下長崎區平民永見傳三郎代理
青木木七郎ヨリ唐津石炭輸出ノ為
雇入外國船唐津港一面漕ノ儀願出
候ニ付曾ラ大蔵卿、相同置候處右ハ
許可候條外國船雇入免狀ハ貴省ヨリ
下附相成答ニ付受取方願出サセ候様可
申渡旨御達相成候然ル處右免狀
出願ノ順序等相運候中ハ往復尚
數旬ヲ経過セサレハ面漕ノ都合ニ至ラサル
ヲ以テ為ノニ願人ニ於テハ營業上大ニ時機
ヲ失フル等難点不尠因ラ便宜ノ為メ
本廳ニ於テ一時假免狀下渡ニ追テ
本免狀御下附ノ上引換候款又ハ免
狀用紙豫メ本廳へ御下附其船名
噸數等記入下渡ノ上其旨上申候
款實際不便ノ事情御酌量至急
何分ノ御處置被下度此段上申候
也

明治十五年十二月十八日 長崎縣令内海忠勝

外務卿井上 馨殿

十一月廿一日

書記

麻器司

儀式課

輔印

長瀧野屋内海老屋敷御膳所并上野

儀禮第百六十八號

聖器乎哉乎是也三帝也元亨利貞也

引度摩石炭礦出之爲外國所雇入

降、降、回漕之矣、大新、大新、出題、出題、

上外國の雇入免狀の商賣の支拂金

吾身安所方不獨出吾國一邦今趨

然に在る状少くして順序をおお通ひなり

外務省

性德野句ヲ費シ學堂正大ニ時機失シ難

漢之勢
 二同り中縣ありて
 一府に在りて
 下

以先自豫乃為不人等物用紙為上

去し功名申出し遂に取在る一途
 其の志

得者一和不同所入之氣淺深不同

以事ハ和ハ者ハ修シ其ノ教ヲ者ハ修シ其ノ行ヲ

物に在る物は、知を去れば、
物に在る物は、知を去れば、

千尋の如石屋、花笠水山より内へ

卷一百一十五

全

德

三

傳人譯



錄局寫

[illegible]

壬午年五月廿八日記
馬繼繼課接受

外務省

漢書
列傳卷之四十四
王莽傳
莽自以爲
天下無雙

經書記課 十二月廿六日

別紙

商務局

官本

儀式課

印

脚

美百六十四

獨逸國高船

インコーナ

永見傳三郎代理同縣平良

右、今般長崎縣平良青木休也郎領

依り本年三月 日ヨリ向六ヶ月間雇入

肥前國唐津港ヨリ支那地方へ輸出

之石炭積取之為、同港へ相廻通船

出之儀大藏省何濟ニ付石炭期限

外務省

中、限り寄船之義免許候事

明治十五年三月廿六日

外務省

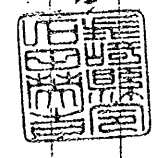
日本郵船

七月十二日接受

外第百四十九號

青島休七日申狀ニ依リ獨ニ國々船往
 入唐津港ニ寄船先狀滿形西向市
 高島永見信三郎代理者亦休七日
 依リ獨ニ國々船往申狀ニ依リ申状
 十一月十日同司往入レ全港ニ寄船先
 狀下附申状ニ依リ申状ニ依リ申状
 改申状ニ依リ申状ニ依リ申状
 本收期成反以附上申状也

明治七年七月廿日
 長崎野田英吉



外務部 代理

外務部大補吉岡清太郎

七月十四日

長崎縣

不用類解

不要寫



其後太
定時雇
和安
和安
以務多
多

三月八日
記録
要領

庶務局

二月廿二日

儀式課

内閣書記官 外務書記官

長木縣出第のり岩末海

勿名新の雇入而軍港

係隔の者より経回

右新の市街の改修

沿つて、以新を

右よりりま

十六年五月八日

外務省

長海町下戸

右新雇入

沿より新の

右新雇入

右新雇入

右新雇入

右新雇入

右新雇入

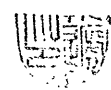
右新雇入

〆るゝあしひのしこゝをわたりてゐる
 拾をきゝあゝぬれにけりなうけをうけ
 うゝうゝのきゝあゝぬれにけりなうけ
 〆るゝあしひのしこゝをわたりてゐる
 拾をきゝあゝぬれにけりなうけをうけ

外務省

五月八日

記録局爲了



陸務局

儀式課

一月四日 接受

本局に在る附以古くは有伺と結知の度は
 港の石炭を輸出するもの船隻入るに依
 附者少くは船主の回書に在るを依
 寄但るを以て了るに及ばず外國船隻入
 石炭港地を主輸出之義何出に對し
 許可ありしを故者より通書なるを
 寄通るを以て本局より通書なるを以て
 通るなり

十六年五月八日
 陸務局 儀式課 接受

外務省の在り

十六年五月八日 記録局 儀式課 接受

太政官

記錄爲了

五月八日

庶務局
宮本

外務省
商務局
儀禮第三號

俄式餅

一月廿六日達

太師官券書地券
勿得書地券

客年三月廿二所名醫海內外及陳院

爲此海地者、石炭土爲多、其色如塵

入回隆、回湧、文甲品、手臥、杉村、空谷、分

三、客卿を以て一國を以て爲す

手得免狀少所_レ失_レ以_レ於_レ金_レ無_レし_レ爲_レ可_レ也

五月八日記録局額額額接受

五月八日記錄周顯賢辭接受

外務省

勿為所屈入之空屋內了盡為去一或同出

對已許了者，在商而不通者，
言別後

以僧等之旨因等之語了永御之右二書ん

昭隆二年正月晦日而遷之越之於今後

いふ所を關係の多量に及ぶ

信手書此以誌其概

[illegible]

孝子

記録局寫了

要類輯

二月十三日編纂

外務省十三号

庶務局

外国船雇期更正ノ義付伺

儀式課

同録付

公平社支店事務長井関盛民願ニ因リ客年十一月廿五日ヨリ本年二月廿四日ヲ露国並ニ高船カムチヤツカ号雇入多累下唐津港ヨリ清国上海へ輸出ノ石炭積取ノ為全港へ相廻候義我御許可相成居候處候流航船着港延引致候ニ付客年十二月十六日ヨリ本年三月十九日迄雇期更正ノ義別紙一通願出候条御耳届相成度別紙免狀相副此段相伺候也

明治十六年二月十六日

二月十三日記録局編纂課接受

長崎縣

長崎縣令内海忠務

外務卿井上馨殿

別紙

外國租入寄船免狀願

客年十月廿九日、記、唐船、乙子、北、東、支、
 店、七、井、築、事、及、三、格、候、在、留、米、國、者、人、
 ウ、カ、一、ル、之、ホ、一、ル、者、五、引、候、之、需、國、燕、房、
 商、船、カ、カ、ヤ、カ、号、明、十、五、年、十、日、五、日、
 申、年、二、日、在、留、出、云、日、百、入、之、船、
 被、多、方、形、在、期、限、中、一、唐、船、港、
 法、國、上、海、石、炭、在、船、之、積、貨、港、
 寄、船、乃、為、不、存、之、候、也、知、出、日、下、
 之、交、日、人、分、在、之、事、所、云、云、号、名、知、狀、
 王、所、云、云、多、云、云、該、船、在、港、入、船、
 遷、延、後、之、候、客、年、十、日、五、日、該、港、
 入、船、船、主、者、曰、月、十、日、云、云、年、
 三、月、十、五、日、出、三、日、乃、在、港、方、
 之、上、取、取、カ、云、云、寄、船、免、出、之、為、
 十、日、乃、在、三、月、十、五、日、期、限、日、
 日、交、別、紙、以、下、所、云、云、日、名、
 所、云、云、云、云、

明倫彙編

李和甫郭彭氏

松林生政代理

吾生如歸而無所歸

長安縣志

幸勿失之

林氏

外務卿并参事殿

唐津

公平社

福田嘉成

3-0005

0324

三八四

目錄付了

鐵式部

記
金
子

要類輯

要類

外國船寄港免狀、御旨申
長崎知事肥後國唐津に設立
改定公平社、清王上海石炭
並輸出、知事雇入、係大藏
省、退許、控り、海船力、ヤ力
号、回所、寄港、係、許、可、在
成免状、限、免、者、り、受、取、本、年
八月廿四日、該、知、事、應、知、以、右
延期中、寄港免状、要、以下、添、方
別、市、通、回、社、支、店、子、務、長
并、英、監、長、り、照、出、り、右、既、舊
本、係、此、取、得、申、也、

1000

明治二十二年二月七日
東京府知事吉田顯正

外務卿井上馨殿

二月十二日

二月十日

庶務局

宮本

儀式課

合

東京府知事芳川殿の取次を以て御座候事

長崎縣下肥前國佐々木藩に於て

國上殿、右様と申す御座候事

入目所、等陸、又右様有御座候事

海、等々、又右様有御座候事

等陸、等々、又右様有御座候事

等陸、等々、又右様有御座候事

等陸、等々、又右様有御座候事

等陸、等々、又右様有御座候事

等陸、等々、又右様有御座候事

等陸、等々、又右様有御座候事

等陸、等々、又右様有御座候事

等陸、等々、又右様有御座候事

等陸、等々、又右様有御座候事

等陸、等々、又右様有御座候事

記録局寫了



要類輯

二月十二日記録局編輯課校

外務省

別紙

庶務局七修

儀式課

輔卿

第百二十号

露國通商船

カシヤツカ

右、今般公平社支店事務長井関盛昌領傳、
本年二月廿五日、今年八月廿四日、該船雇入
肥前國唐津港より清國上海へ歸出之右、積込
之為同港へ相廻り、直輸出之儀、大藏省の許可
右、雇期限中、限り、寄船之儀、免許の事

外務省

明治三十二年二月十日 外務省

錢局寫了

印

外務省
庶務局
儀復第廿三號

十二月四日

儀文



長海縣令内海志勝殿の房に書物を留めし
公事社に在る爲長井周盛良頼二因り客年
正月廿四日申年正月廿四日石塔勝殿に爲る國
高公力にヤッ力号一雇入厚徳院、寺院に免狀
所より、重く要し所なり是院より一以て客年一
三月十日より申年三月廿四日雇期更ふに交
杉村良昌の書を在る預言信の爲りて、以て出
二月十三日記録局編輯課接受
外務省

二月十三日記錄局編輯課接受

外務省

馬

千七百五十五

外務省

3-0005

0330

三月卅一日編輯

外 部 三 十 四 号

雇 外 国 船 寄 港 免 状 返 納 ノ 義 存 上 申

先般公平社事務支店長井冥盛良願ニ依リ
本年二月廿四日より今八月廿四日まで石炭積取
ノ為露国高船カムヤツカ号雇入唐津港へ寄
港免状即下附相成候存別紙ヨ免状返納致
候条進達仕候也

明治十六年三月廿三日

長 崎 縣 令 石 田 栄 吉 代 理

長 崎 縣 大 書 記 官 上 村 直 樹

外 務 卿 井 上 毅 香 殿

不用類書
不要寫

三月廿一日記録局編輯部受

長 崎 縣

長崎縣
上村直樹

同録付了

記録局寫了

要類輯

輔卿

蔵書局

二月十日

蔵書局

省

外務省 第七 補

太政大臣三條實美殿 外務卿升上登

客年八月三日付送第一四号不支勘有

何長崎縣下戸律港より清國上海地方石

炭並露出、爲外國私雇入回港、因酒、交

回船手、武村定信、人者、以名神、お知、及

四年三月七日付送第一六号不支、又回、知、及

五月八日記録局蔵書局受

外務省

承見、信、三、郎、も、名、目、様、の、以、名、神、お、知、及

内閣書記官、^{幸、の、り、}一、般、の、因、酒、港、より、知、及、不、支、

人、或、は、何、長、崎、縣、下、戸、律、港、より、清、國、の、上、海、地、方、石

炭、(回、船、手、武、村、定、信、人、者、以、名、神、お、知、及、

具、し、太、政、大、臣、三、條、實、美、殿、外、務、卿、升、上、登、

其、趣、の、以、名、神、お、知、及、不、支、^{省、入、}制、規、二

有、之、爲、昨、年、三、月、廿、二、日、付、送、第、一、四、号、不、支、勘、有

客、年、八、月、三、日、付、送、第、一、四、号、不、支、勘、有、

五月八日

ヨリ内閣書記官長宛
大正十六年四月三十日
大正十六年四月三十日
大正十六年四月三十日

雇入の労働者より生じた労働争議の解決に際しては

件下を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

之を成り事故なるものにして、その解決に際しては

輔卿

五月八日編輯

内閣書
記官
二五号

外務省
儀禮第七
號
庶務局
宮本

儀式課

目録付

外國船雇入不所港場、回航之免状
下附順序之義上申

客年八月三日附送第二四号ヲ以大藏省
同長寄縣下唐津港ヨリ清國上海地
方、右定直輸出之爲外國船雇入同港
、回漕之義同縣平民松村定治ナル者、
御允許相成候旨及同年十月七日附送
第一六号ヲ以テ猶又同縣平民永見
傳三郎、之前同様ノ義御允許相成候
旨内閣書記官ヨリ本省迄一應之通牒
有之候ヌ元來人民勿論諸官廳
ト雖モ外國船ヲ雇入不所港場、回航
甲七
五月八日編輯局編輯

外務省

之義、其事務之官廳ヨリ其事情ヲ具
シテ太政官ニ稟議シ御允許之上、本省、
其縣太政大臣殿ヨリ海運相成該免状、
本省ヨリ雇入之方、付此ナルノ制規ニ有之
條ヲ昨十五年十二月廿二日附儀禮第七
号ヲ以テ前件同様其更ニ海運相成及
旨當省書記官ヨリ内閣書記官、家及
照會候處右、外國船雇入不所港場、
直輸出之義大藏省何出ニ對シ御許可
相成候事故當省ハ、通知シテ別段申
進ニ不相成旨回答有之候然ルニ前陳、
知シ鄭重之手数ヲ要シ候所以、不所港
場、外至船ヲ入候儀ハ條約面ニ著明者候

義有之且密商之弊害ヲ防中候義ニ
レテ特別ニ商許可相成候旨判然由達
至之候ニ宛状付此ニ善支申候條ヲ
今般之義ハ勿論以後其治前之通其
都度商指令相成候條般後此般上
申指也

明治十六年三月十日

外務卿井上馨

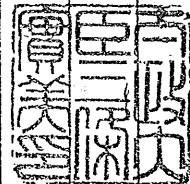
大政大臣三條實美

外務省

記録局寫了

上申ノ趣ハ別段達ニ不及儀心得
ニ

明治十六年四月三十日



公信局

三月廿二日接覽

明治十六年三月二十二日

輔卿

記録局寫了

三月廿二日

要類輯

奉旨抄寫

奉月十六日奉國汽船カハセツリ号石炭灰

牙粉、糖、塩、唐津、漆、等、並、中、等、品、

並、中、等、品、石炭、通、船、以、新、向、方、

向、等、以、以、達、上、等、品、不、能、在、之、

子、有、之、自、爲、上、等、品、所、謂、新、向、方、

夾、板、船、等、也、我、國、人、之、中、立、之、後、

既、有、之、後、船、中、子、有、之、後、

右、様、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

對、之、海、外、直、船、之、交、果、之、以、新、向、

記録係 馬了

三月卅日 編輯 録

明治十年三月廿八日起草
同 年 月 廿八日 贈遺
輔 卿 公信局長 佐野

通商課 録

三月廿八日 通商
主任 佐野

124

公第三 記 歸

在 上 西

總領事品川忠重 外務大輔吉田清成

本月當附三月十八号より早号より至公信并録る様告り申上

牛月廿二日接到 送付同小

三月十九号中 本月分英國汽船カネツカ号石炭一千噸ノ

三月卅日記録局編輯課接受

外 務 省

神田康津次郎より直々上海へ乗船之需を提出せられ

申上られし事あり、上掲之需を提出せられし事あり、

此等之需を提出せられし事あり、上掲之需を提出せられし事あり、

中柳中より提出せられし事あり、上掲之需を提出せられし事あり、

長崎より提出せられし事あり、上掲之需を提出せられし事あり、

入山より提出せられし事あり、上掲之需を提出せられし事あり、

西海より提出せられし事あり、上掲之需を提出せられし事あり、

要 録

五月廿四日編輯

記録局寫了

昇殿及免狀御下海義旨請願

記録付了

外國船寄附及免狀之儀、是次代理長官より、司以、
之通、五月、六日、記、以、御、有、御、上、願、或、下、候、様、長、崎、縣、
幕、仕、處、朱、書、之、通、御、指、令、有、候、旨、不、得、止、請、願、規、則、
二、據、御、有、直、願、仕、候、別、紙、之、事、情、御、取、下、上、用、上、場、
縣、廳、及、有、心、領、事、館、之、時、及、免、狀、御、下、海、義、旨、之、
有、仕、合、奉、在、同、情、願、之、御、請、可、知、申、上、中、段、奉、願、候、也、
明治三十一年四月

長崎縣西浦郡新井中民

松村定次

右、長
田代健

唐津 公平社

(本書、對元指令ハ五月廿三日ニシテ今日付長崎縣令往書
儀、得、第、廿、三、号、ノ、後、キ、在、リ)

外務卿并上奏成

寄船伍貳拾壹石

公平社

3-0005

下附其書不主其南業上其便利ヲ得可也
 所名其以下附其速速之國之商人も亦不
 實之者其多也其前附其速速之國之商人も亦不
 入所名其以下附其速速之國之商人も亦不
 之儀少其多也其前附其速速之國之商人も亦不
 時之重而外國人其前附其速速之國之商人も亦不
 其向之重而外國人其前附其速速之國之商人も亦不
 夫が為彼是之由也其前附其速速之國之商人も亦不
 商業進歩之の爲也其前附其速速之國之商人も亦不
 對し不而目也其前附其速速之國之商人も亦不
 及、乃由之也其前附其速速之國之商人も亦不
 乃、乃由之也其前附其速速之國之商人も亦不
 外務省より其前附其速速之國之商人も亦不

唐津

公平社

明治三十二年四月

長崎縣田代郡新井村長村長代理

長崎縣田代郡新井村長村長代理

長崎縣田代郡新井村長村長代理

長崎縣田代郡新井村長村長代理

長崎縣田代郡新井村長村長代理

長崎縣文書記官村直則殿

卷之三

予書自願出候問道

明治十六年三月十七日

郡長

東坡詩集卷之四

外科

書面願、類考、集助、子書、次第、有、一、自、注、藏、類、及、子、書

張氏子

長壽縣志

長崎縣立大書院
上村重郎
印

唐津

公平社

富本

明治十六年四月六日公署廳發

100

飯太師

卷之六

在上海日本總領事館

在上海

品川總領事

劉子雲

老圃外稿大補遺

別紙

寄船免狀願

長崎縣下肥前國東松浦郡唐津港ヨリ海外へ
石炭直輸出ノ為、長崎税関出張所新設奉
願、屢々密裁五月中蒙御允許、付内國船ヲ以
運搬致意存、其共未、内國船堅牢ニシテ船体保險
ノ船舶少ナキカ、為ノ運賃高價ニシテ、何分難庸入依
大藏省へ出願、外國談港へ出入ノ御許可ヲ得、
得共外國船雇入ノ時ニ該船ニ對スル寄船免狀ハ別段
外務省へ出願、同有ヨリ御下附之上唐津港へ出入スル
順序ニ相成居、其所遠隔ノ地ヨリ傭入ノ時々東亞外
務省へ出願、免狀御下附到達致、其數十日、經過
致、然、外國船雇賃金一日數百弗ヲ以雇入置、

在上海日本總領事館

右寄船免狀御下附相成、其運賃敷致、其ハ實際ニ誠
ニ難、然、仕、左候、連未、夕雇入ノ條、約、不致、シテ免狀ノミ
御下附出願、其事ニモ不相成、且又商業之都合、ヨリテハ
清國上海及香港未、一腔泊、シ、船舶雇入即日唐津港へ
向、出帆、為致、或ハ一航海、ノ雇入、其事、可有之、又甲船
雇期限中、若シ修復期到来、其難計、然、時ハ俄ニ
乙船ヲ以テ甲船修復中、代用航海、為致、其事、可有
之、其、依、テ寄船免狀之儀、雇入ノ時、外務省ヨリ免
狀御下附被成、下、止、當、地、ニテ傭入、其時ハ御下附、
於、一時、依、免狀御下附被成、下、止、商業上、大、便利
ヲ得、可中、右御免狀御下附、遲速、ニ因テ商人、幸、不幸
實、難、盡、筆、紙、外、前、陳、仕、候、通、リ、船、ハ、雇入御免狀
御下附、遲延、ノ為、不得止、休、業、仕、其、様、之、儀、出来、其、ヤ、

難量若レ夫カ為休業致ル時ハ策テ外國人へ定期
賣込ノ條約仕候向モ有之ヲ付其條約面ニ對シ違
約時ハ夫カ為レ彼是内國商人ノ困難モ不少今日
商業進歩之時勢ニ御坐付ハ外國人へ對シ不面目
無之様精々活潑ノ取引致度存リ内國商人便利
ヲ得ル様御保護之為ノ御本館ヨリ一時仮免狀御渡
置被下歸朝之上外務省へ出願シ本免狀御下附ノ
上ハ直ニ引換御返納仕ル様被成下付ハ免狀御下
附遲延ノ為ノ輸出休業ノ様ノ事モ無之隨テ取計
滞滯ノ為レ彼レヨリ違約價金要求被致ル患モ無之
誠ニ難有仕合ニ奉存付付何卒前件ノ事情御
汲取之上其旨御上願被成下度此段脇ニ奉
願以上

在上海日本總領事館

長崎縣唐津公平社長

在上海 松村辰昌印

明治十六年三月

總領事品川忠道殿

長崎縣下肥前國東松浦郡唐津港へ日本商
船外國船寄錨石炭積込仮定則案

第一章

雇主ハ石炭積込ノ單一ナル目的ヲ以テ定期（六個月或ハ一年）
雇船ヲ唐津港へ寄錨セシムル為メ外務省ヨリ特許
ヲ得ヘシ

第二章

長崎税関長或ハ我在清ノ領事官ハ此假免狀ヲ下
付スルノ特權ヲ得ヘシ

第三章

外國船雇定ノ後雇主具外務省ノ特許狀ヲ附添シ
雇入地ノ便近ニ就テ長崎税関或ハ清國ニ在ル我々
在上海日本總領事館

領事館へ唐津港寄錨ノ假免狀ヲ請求シ得ヘシ

第四章

雇船唐津港へ寄錨セシムル特許狀並ニ假免狀ヲ
附添シ該港ニ在ル税関出張所へ石炭積込ノ免
許ヲ請フヘシ

此外ニ此定則ヲ犯シタル時ノ罰則ヲ嚴定スヘシ

卷之五

輔 卿

麻呂本

陳梁

午像



省隊

三才圖會

明治二三年二月晦。列陣甲子以達以木地。

...

補助之爲上ニテ事務院實多一者ハ外國船

二、
三、

唐之南陽、國澤、美、一切、家、故、有、之、多、也。

高

名振出者石方未海可玉獨步一為運轉

傷了計一月之間死了一萬餘人因傷多

鐵頭之節以爲至要、官廳於之理、所上雇入

外務省

親屬之莊園故鄉之懷向之特別之愛

[illegible]

卷二
是子切石了少得沙小如親之方一人物之子

先股去和石恒長濟醫手印松村定廣、印傳

薩摩防衛上地方 石炭を採るゝる所

國為物カ山ナヤカ号ニ雇入同格、同價ニ交シテ

創始係由名醫左氏所傳

於又學後同知平武水使楊三郎せん者、小者

[illegible]

右三ツ并下第一右邊大藏有、百智之墨、今一紙○

學

乙巳六月動筆

[illegible]

外務省

但書をしつゝ以て定むる爲め地方事務に
爲す事多し其事務實事として之を以て
國主爲す事ハ能く其を以て爲す事
は之を以て爲す事として之を以て爲す
事多し其事務實事として之を以て爲す

五月廿六日編輯

記全 局寫了

輔卿

言

庶務局宮本

儀武課

五月廿八日達

目録付了

大藏卿松方正義殿

外務省 儀武課第十一號

臣等所屬の運搬、若外國船の雇入、開港

場、回漕り、客貨の差押せ、若くは、

船主、石炭、土油、

其の運搬、

雇入、開港場、

其の運搬、

五月廿六日記録局編輯課受

外務省

其の運搬、

其の運搬、

其の運搬、

其の運搬、

其の運搬、

其の運搬、

其の運搬、

其の運搬、



皇清光緒二十五年

五月五日

五月九日

輔卿

廣務局

儀式課

多力相方司政司司理人等。受

外務省 儀禮部 第四

奉入外務省司政司司理人等。受

地方廳長司政司司理人等。受

市町村長司政司司理人等。受

警察廳長司政司司理人等。受

文部省長司政司司理人等。受

農商務省長司政司司理人等。受

五月廿五日

外務省

本年八月間奉司政司司理人等。受

地方廳長司政司司理人等。受

市町村長司政司司理人等。受

警察廳長司政司司理人等。受

文部省長司政司司理人等。受

農商務省長司政司司理人等。受

地方廳長司政司司理人等。受

市町村長司政司司理人等。受

要類輯



十國公報

石菖蒲

鐵

目錄付了

合

記錄局寫了

要類輯



儀禮第十三

方氏書院

24

初稿書

數日少傷佳名高亭名處入初回航

之宜從之。儒者所行。不爲己。而爲地。方。

此後

多所修葺、
以備不時之需、

[illegible]

不遠千里而來

五月十五日 記餘局編輯部校受

外務省

[illegible]

輔卿

記
爲了

要類輯

五月廿四日編輯

五月十六日發受

熊野

卷第六號

麻務局

目録付了

儀式課

任入外國船不開港、由潛出航許可
一者、地方所ヨリ一時假免状下付
義院、其節、通達多新、亦亦知
被本度、儀渡、亦ハ十三、御、以、以、同
名、一、越、了、亦、在、云、ル、十、下、部、使、ラ、以
来、一、校、園、在、云、云、一、段、及、其、回
る、也
明治三十二年五月十六日

浦古藏様大書記


外務省
外務省
外務省

五月廿五日記録局編輯課接受

大藏省

五月廿三日通

儀式部

長壽縣石印書局
外務部
井上總代理
外務部
井上總代理

零年五月十八日 不夜律石炭地、正

輸出之爲外國所雇入之國港（回漕）

有親者乎 予乃以安孩免怖也

[illegible]

臨安縣志

五月廿五日記錄局編輯課接受

五
子必爲人三變
學焉業焉上大
二寸數

失し致況を勘因す便會と爲一時主社より

能免狀ヲ爲ス人ニ免ス豫ヲ免ス用紙ヲ

圖形を以て便に之を置かざる由を申し文

石、醫原乃使之趨之、少頃而為前件

出類拔萃

任文州ノ身ヲ而シテ將シテ國ヲ成スル者ノ也ナリ

急於求成，反致失敗。

記錄局寫了

引換の都合に決是仰、惟向後支取
有様之許了んは、其旨を回而る候
可多移座敷とあり、此項先收之儀
年式お村宮院、永見傳三郎、如申ハ
股にお知有、左記官、輕白所了ん者
在更に別紙雇入等状より出りて右
多條に概し、所修免狀又請願書
無。此世往同屋敷中なり也

外務省

明治三十一年四月二十五日
信々貴府より電付スル件、依所常態形
見當くる為、主として文意に倣ひ、
下附のとおり也

外務省

別紙

第何号

何國凡商船

何号

石、今般何船、手印何、誰願、何、本年

何月何日より向何月間在入何國何港

より何國地方へ輸出之石炭積取之為メ何

港へ相次直輸出之儀大藏省伺濟ニ付

外務省

石炭期限内、限、寄船之儀免許候

事

第何月何日 外務省

急

卿 輔

吉田

庶務局

宮本

五月廿三日 通達

儀式課

印

以務令案

物く起つ既、長所特全、及
務令案、中から事、後更に

同融、の同出為事

昭和三年五月日、外務省

五月廿五日 記録局 綱領課 授受

外務省

記録局寫了

要領

五月廿四日 編纂部

庶務局

公信局

儀式課

五月廿三日 庶務部

田部村

車上

總領事局川忠臣殿 午後五時 東京中一

外務省 儀修第三十號

本年三月廿八日附其四号の号に長崎縣下知事

港より海を、在りて、出陣するに成るる外國船

雇入同港、寄附し、免状を授け、多量に便する

す、後、長崎縣内、或、主事、出陣、致す

一時、長崎縣内、或、出陣、致す、社長、杉村、長島、

出陣、及、長崎、長島、出陣、致す、杉村、長島、

五月廿五日 記録局 編纂部 抄

外務省

親善部下

由、親善部、長崎、長島、出陣、致す、杉村、長島、

件、付、太政官、許可、後、免状、得、込、込、込、

由、附、自、長崎、長島、出陣、致す、杉村、長島、

長崎、長島、出陣、致す、杉村、長島、

業、上、大、時、極、大、出陣、致す、杉村、長島、

以外、お、所、雇、入、不、開、港、回、港、大、出陣、致す、

経、向、陣、下、大、出陣、致す、杉村、長島、

地、方、雇、入、大、出陣、致す、杉村、長島、

[illegible]

19

有聲境如地。聲時亦如。寂然無聲。
寂然無聲。是時亦如。地之有聲。如地。

十二十三

外務省

綴込前後

六月十八日 編輯

六月十四日 接受

記録司馬

要領

才七柱九号

廣務局官本

曾て小宮上申知、長崎公事社長松尾氏より、
既、廣務局内、市人唐の社長松尾氏より、
永く、廣務局、社長の、
中、松尾氏より、
其地、
永く、
永く、

在土海

明治三十二年六月

松尾氏より

松尾氏より

宮本外務大臣記官殿

六月十八日 記録司馬編輯

在上海日本總領事館

外第百三十八号

英國商船准入免状書下付之儀
ニ付上申

招村定治代理招村辰昌ヨリ別紙英國
船セシウス号本年六月廿五日ヨリ向六月
間准入レ且同國風帆商船アラトヨリ全
年六月廿五日ヨリ向三月間ニ准入ノ儀願出
候ニ付御者本年五月儀准入三号ノ之
旨ニ付準當ニ殿ヨリ一時免状書下付致
置候条速ニ本免状書下海相成ニ及別
紙相副此段上申仕候也
明治七年七月廿四日 長崎縣令石田英吉

外務卿代理
外務大輔吉田清成殿

不要寫

七月十四日

要領



別紙

外國船雇入寄船免状願

大浦

長崎縣管下肥前國東松浦郡唐津港ヨリ
馬海エ石炭直輸出之為メ英國蒸汽高船セル
ウエス號本月廿五日ヨリ向六ヶ月間雇入且又英國
帆船前高船ブライド號本月廿五日ヨリ向三ヶ月間
雇入ノ約定仕候間寄船免状御下附被下度此段
奉願候也

明治十六年六月廿五日

西松浦郡新井村定次郎
モロモロ今般所ニ寄ル等因

松村啓昌

信昌

唐津

公平社

外務卿井上馨殿

七月十四日編輯

復讐第九

原

七月十三日通達

儀式録

長崎縣石田藩主殿 外務省

石田藩主殿 石田藩主殿 石田藩主殿

石田藩主殿 石田藩主殿 石田藩主殿

石田藩主殿 石田藩主殿 石田藩主殿

石田藩主殿 石田藩主殿 石田藩主殿

石田藩主殿 石田藩主殿 石田藩主殿

石田藩主殿 石田藩主殿 石田藩主殿

石田藩主殿

石田藩主殿

石田藩主殿

不要寫

要寫

七月十四日記録局編輯課接達

外務省

輔卿

別紙

庶務局

儀式課

第百五十三号

英國燕汽商船

ゼルクエス 號

右、長崎縣平戸村定治代理松村辰昌預て

係り、本年六月廿五日より向古月同雇入肥前國

東松浦郡唐津港より清國上海へ輸出之石

炭積取之爲同落、相廻直輸出之儀大藏

外務省

省代濟、右雇期限内、限り寄船之儀

免許候事

明治十六年七月日

外務省

輔卿

別紙

庶務局

儀式課

第百千三

英國帆船商船

ブライド號

右長崎縣年試村定流代理村長昌興

依り申年六月廿六日より向三月間産入肥前國

東松浦郡唐津港より清國上海へ輸出之石

炭積取之為同港へ相廻直輸出之儀大藏

外務省

省同濟ニ付石産期限中、限。号船之儀

免許候事

明治十六年 月 日

外務省

明治十六年五月二日再

不用類

一月十八日

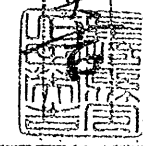
蔵書局

一月十八日

目録付

外務省

客年六月自中佐関が安民松村定
 治代理松村辰昌依願英園前
 高知ブライド舞全舞系なる船せん
 ス等産入佐関が下唐津港へ寄
 船光武の附お成所更古二船有
 満船に所候免状返却改帳系已
 外紙寄船お少景おあは段は
 士候也
 明治十七年一月廿 長崎分令石田英



外務省代理

一月十九日

明治十七年